

中学校社会科（歴史的分野）学習指導案

指導者 橋本 浩

日時 2017年12月11日（月）第4限  
 場所 図書室  
 学年・組 中学校1年C組 40人（男子 18人 女子 22人）  
 単元 武士の世の始まり

指導計画（全7時間）

第一次	武士のおこり	1時間	第二次	荘園の発達と院政	2時間
第三次	鎌倉幕府の成立	2時間	第四次	鎌倉時代の村と町	1時間
第五次	鎌倉文化	1時間			

題目 武士のおこり

目標 武士のおこりについて、考え、意見を交換して、武士に対する理解を深める。

本時の評価基準

- 1.自分の意見を意欲的に形成しようとしている。（関心・意欲・態度）
- 2.武士の基準を考え、整合的か判断し、それを他者に説明している。（思考・判断・表現）
- 3.プリントの図を組み合わせて、自分の主張を説明する構成を書き込んでいる。（技能）
- 4.教科書や資料集・インターネットから情報を得て、自説の根拠を集めている。（知識・理解）

本時の学習指導過程

過程	発問・指示	生徒の動き	資料ほか	備考
導入	今日、「武士のおこり」について学習します。 ・図書室を使って、武士のおこりについて調べ、話し合い、「武士のおこり」の物語を作ってみます。 はじめに、武士とはどのような姿か、わかる資料を集めてもらいます。 次に、プリントなどを使い、武士のおこりを説明する物語を作ってもらいます。	班別に着席する 課題を聞く		OHC スクリーン タブレット 準備
展開 1	武士がわかる資料を集めてみましょう。 ・各班が集めた武士の姿を見て、武士の始まりを示す図がありますか。 ・奈良時代に武士はいますか。 ・鎌倉時代に武士が幕府を作れたのは、なぜでしょうか。 ・では、平安時代に、武士がおこった理由は何でしょうか。	図書室内の資料を探す。自分の班に資料を集める。 資料を皆に提示する。武士のようすを共有する。 武士のおこりの時代性に着目する。 時代背景から武士を捉えさせる	絵巻物 辞典、通史 歴史画など OHCに写す	
展開	「武士のおこり」について、物語を	課題を確認する。	プリント配布	文献 2

2	<p>作りましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・なぜ、武士が起こったのでしょうか、それを上手に説明してみましよう。</li> <li>・どれが武士のおこりだといえますか。</li> <li>・教科書を参考にしましょう。</li> </ul> <p>・インターネットも調べてみましょう。</p> <p>・他の班の考えを聞いてみましょう。</p> <p>・自分の班の、「武士のおこり」の物語を図示し、発表しましょう。</p>	<p>班内で、自分の考えを表明する。</p> <p>各班で、討議する。</p> <p>教科書で調べる。</p> <p>隣の班に考えを聞く。</p> <p>「武士のおこり」を発表する。</p>	<p>奈良時代の武官 平安時代の諸階層</p> <p>軍事貴族 蝦夷 国司 武装した人 農民</p> <p>教科書の記述 国司の政治 荘園の成立 地方の反乱 蝦夷との戦争</p> <p>インターネット</p> <p>記入したプリントを映し出す</p>	<p>・ 3 より作成</p> <p>iPad</p> <p>O H C</p>
終結	<p>どの物語が、最もよかったですか。</p> <p>・「武士のおこり」について、調べて発表し、他の班の話聞いて考えたことを、記しましょう。</p> <p>・武士とは何か、短い説明文を作りましょう。</p> <p>次の時間は、武士がどのようにして、政治を握るようになっていったか考えていきます。</p>	<p>意見を述べる。</p> <p>記述する。</p> <p>武士を定義する。</p>	<p>武士の時代性に 着目させる</p>	

### 教科書

『社会科中学生の歴史 日本の歩みと世界の動き』2017 帝国書院

### 資料集

『資料カラー歴史』浜島書店

### 引用・参考文献

『日本の歴史 07 武士の成長と院政』下向井龍彦 2001 講談社

『人物と文化遺産で語る日本の歴史 3 平安京に栄えた人々』古川清行 1981 みずうみ書房

『資料 日本歴史図録』笹間良彦編著 1992 柏書房

### (2) 資料

プリントの図配置

④⑤国司と従者		
①奈良時代の武人	②武官	⑨甲冑を付けた武士
	⑥豊かな農民	⑦貧しい農民
③蝦夷		⑧武器を持った庶民

資料プリントに用いた画像

- ①綿襖甲（奈良時代）（唐時代の俑をもとに推定）『資料日本歴史図録』笹間良彦編著 1992年  
柏書房 209頁（以下、同書はAと記す）
- ②武官（五位以上）の束帯 A 141頁
- ③弓矢を構える蝦夷
- ④直垂に立烏帽子 A 153頁（『真如堂縁起絵巻』）
- ⑤国内を巡視する国司たち 『人物と文化遺産で語る日本の歴史 第3巻 平安京に栄えた人々』  
213頁図 古川清行 1981年 みずうみ書房（以下、同書はBと記す）
- ⑥豊かな農民 B 193頁図
- ⑦貧しい農民 B 191頁図
- ⑧下級者の水干姿 A 144頁（『伴大納言絵詞』）
- ⑨胴丸着用図 A 211頁

## 実践上の留意点

### 1. 授業説明

武士の発生については、在地領主論，武士職能論，国衙軍制論，押領使をそのはじめと見るなど，多様な学説が展開されている。歴史教育では，その後の中世社会の学習をする前提として，武士をどのように捉えるか，考えることが大切である。自力武装論は，武力を単純化して考えている。

生徒は，総合学習で，災害について各人が調べたことをまとめて，発表した経験がある。図示し説明することは，可能であろう。また，この授業では，図書室を，読書や調べ学習の場のほかに，発表し，意見を交流して学習を広げる場所にすることを目指している。

### 2. 研究協議より

- ・生徒から好評であった。武士のおこりについて，本日の授業と一般的な授業では何が違うのか。どういう力がついてくるのか。  
→主体的に，深く，協同して解決に向かっていく，新学習指導要領に近づこうとした。
- ・同じように武器をつけている人たちだが，この人たちは武士，あの人は武士ではないのか，何が違うのか考えようとしている。自分たちで主体的に考えているという意味では，面白い授業であった。評価はテストか，レポートなのか。
- ・素朴な理解から，最終的に歴史的な考え方・見方ができるようにする，ゴールが必要なのではないか。最後に i-Pad を利用してネットに拡散してしまっていて，そこがゴールになってしまったのではないか。最後にネットをもってきた意図は何か。  
→ネット以前でまとめに行くと，教え込みになるのではないかと考えて i-Pad を利用した。図書室が，集団学習の場として機能することも示したかった。
- ・ネットを使用する時の留意点等の指導はどうしているのか。URL 等控えさせないのか。  
→前期の総合学習で取り組んでいる。何をもって出典とするのか，URL なのか，それが基づいている資料なのか，難しいところである。
- ・提示しようとした武士についての概念は，結局は教え込みの授業のほうがアクティブラーニング型の授業よりも深い学びになるのではないのか。次時で指導案にあるような概念は，提示されなおすすめのか。  
→武士の概念については，いろいろと言われている。武士は格好からはわかるが，本質は何なのかわかっていない。平将門の学習の中で，もう一度プリント資料を使用して触れることになるだろう。